

今年も素晴らしい1年を

学校長 杉森 伸吉

新年のご挨拶を申し上げます。昨年も大変お世話になりました。令和4年となり、いよいよ3学期もスタートしましたが、本年も、皆様にとって素晴らしい1年となることを、心よりお祈り申し上げます。3学期は、1年間を振り返るとともに、4月からの新生活に思いをはせる時期ですし、4月からクラスや学校が変わる場合は、同じ仲間との残り僅かな生活をいつくしむ時期でもあります。

1年生は、4月の新入生を迎え入れる日を心待ちにし、5年生は最上級学年になるための助走期間、6年生は小学校生活を振り返り締めくくるとともに、素敵な思い出を作り、4月からの中学校生活に胸を弾ませるなど、それぞれの菊の子たちにとり、特別な学期だろうと思います。

それとともに、3学期はお別れ音楽会や卒業式など、大きな行事があります。とくに、お別れ音楽会や卒業式の開催方法なども、新型コロナウイルスの蔓延状況を見ながら、考えていかざるを得ませんが、できるだけ例年通りに実施したいと願っております。

今年の今頃は、コロナ禍の真ただ中でしたが、今年の秋ごろから感染傾向が一段落し、オミクロン株などの変異種が増えても、このまま収束していったらいいと願うばかりです。

コロナ禍のような外圧がなければ、GIGA スクール構想やオンライン授業・オンライン会議なども、一気に広がらなかったでしょう。コロナ禍ではない平時に、学校や会社などの組織にオンラインでの働き方改革を導入しようとするれば、推進派と反対派が拮抗して、なかなか早急には変化しなかったでしょうし、推進派と反対派のいずれかが勝利したとしても、意見が通らなかった側の人たちは不満を募らせモチベーションにも影響したかもしれません。しかし、誰かのせいのできないコロナ禍のような状況では、平時では考えられないほど一斉に、早急に、推進派と反対派が仲たがいをすることもなく、変化がもたらされました。誰かが悪いのではなく、悪いのはコロナだ、ということだと思えます。

こうした危機的な非常事態が過ぎた後、元に戻すべきものは何で、元に戻さず継続すべきものは何か、ということも考えていく必要があるだろうと思います。体験してみてよかったものは残したほうがいいでしょうし、そうでないものは戻す、というのがシンプルな原則になるかもしれません。ただ、具体的に、オンライン授業は残すべきかやめるべきか、マスクは外すべきか着用を継続すべきか、などなど、一つ一つの事柄については、意見が分かれるのではないかとも思われます。また、リスクが定量化できる事態でもできない事態でも、リスクへの反応は感情的になりやすいので、リスク回避的な人とリスク志向的な人とでも、いろいろ文化差が生じるでしょう。仮に考え方で対立が起きたとしても、「悪いのはコロナだ」という基本認識で、今年も人々が仲良く過ごせるように祈念しております。